金陵の郷

清酒金陵の起源は1616年に遡る。当時、何軒か酒屋があったが、そのうちの一つが鶴羽屋で、それを引き継いだ羽屋が酒の銘柄を鶴田屋に変えた。この酒屋の酒蔵が江戸末期の1789年に8代目西野嘉右衛門によって買収され、銘酒金陵が誕生した。

琴平本店には３つの酒蔵があった。そのうち大通りに面していたものが第二庫（第二酒蔵）と呼ばれた。約2916㎡あり、1988年に金陵の郷として改築された。この由緒ある酒蔵には、元の醸造会社の白壁が残っており、金陵の郷を訪れた客は当初の酒造りについて学習したり、昔の醸造道具や酒造りの工程を見たり、視聴覚情報を活用することができる。

皆さんが日本の酒文化を知り、まったりとした雰囲気のなか銘酒と出会うことができれば幸いです。樹齢900年の楠の御神木の下で、お酒を愉しみつつゆったりとくつろいでください。